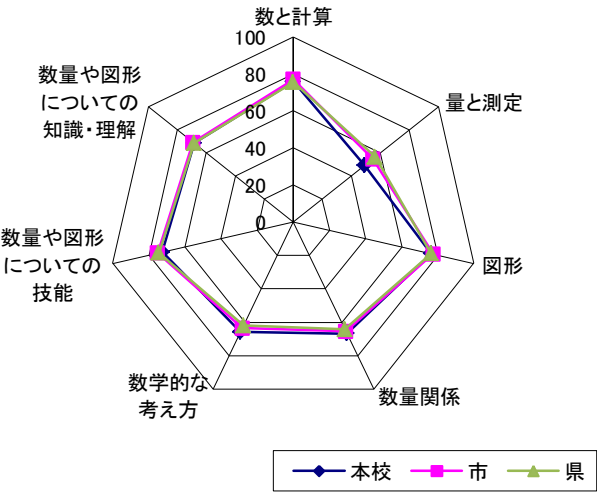


宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.9	77.0	75.6
	量と測定	49.3	54.8	56.5
	図形	76.4	77.4	76.3
	数量関係	66.7	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	65.9	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	72.4	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	68.5	69.1	68.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市の平均正答率を1.1ポイント下回っている。小数のたし算については、校内正答率が8割を超えている。小数の相対的な大きさや小数÷整数の計算については、約6割であり、苦手な傾向が見られる。	・計算ドリルやプリント等を活用し、計算練習を反復して行う。 ・T・Tや習熟度別学習を活用することで、理解の習熟度を図る。
量と測定	・市の平均正答率を5.5ポイント下回っている。面積の㎡とcm ² の関係については、校内正答率が約3割であり、課題が見られる。	・面積の単位の関係について、具体物を活用し、大きさの感覚を身に付け、理解が深められるようにする。
図形	・市の平均正答率を1ポイント下回っている。直方体の展開図の理解については、校内正答率が9割を超えている。四角形の対角線の性質については、約6割である。	・基本的な図形の特徴について確認し、理解を深められるようにする。 ・反復して、作図する機会を設け、理解の習熟を図る。
数量関係	・市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。表に当てはめる数を求めることについては、校内正答率が9割を超えている。折れ線グラフと表については、約2割であり、苦手な傾向が見られる。	・折れ線グラフや棒グラフの特徴を確認し、数値の変化にも目を向けながら理解を深められるようにする。 ・社会や理科の時間においてもグラフの読み取りの時間を十分に設け、理解の習熟を図る。